

基地のすぐそばのテントで、新基地建設反対のため、休むことなく座り込みの抗議をするウチナンチュウの姿を見ました。ベトナム戦争、イラク戦争に加担してしまった加害者であると苦しむウチナンチュウの声を聞きました。沖縄戦で住民の四人に一人が命を落としたという悲劇の現実があります。守ってくれると信じた軍隊に捨てられ、裏切られ、「集団自決」を強要された現実があります。それらは過去のことでなく、今も戦争のための基地と共に暮らしているのが、ウチナンチュウの日常の現実です。自分たちの姿、声は、ヤマトンチュウの目に映っていない、耳にも届いていないと嘆く彼らの前で、私たちは自責の念で重苦しい気持ちにならざるを得ませんでした。

私たちのバスは北上し、米軍海兵隊がゲリラ戦の訓練をする北部訓練所に向かいました。基地は東村と國頭(クニガミ)村の広大な山地にまたがっています。この基地の真ん中を国道が通り、道沿いに小さいながらも私有地、農地があるのも不思議です。返還された森林の一部を切り開いて、「やんばる学びの森」という自然体験学習ができる施設があり、その日はそこに宿泊しました。



交流会での三大美女

夜、夕食を共にし、参加者の交流会が開かれました。日本ジャーナリスト会議の初代事務局長は経済学者・暉峻淑子さんで、オピニオン・リーダーでした。温かい朗らかなお人柄で、また、はっきりと提言なさる素敵な方でした。9条の会グループにも80歳代の美女が二人、参加しています。その一人が孝子さんで、この日が孝子さんの80歳代の最後の夜となりました。添乗員がバースデー・ケーキを用意され、全員でお祝いしました。明日から90歳となりますが、「戦争反対！基地はいらない！」と一声叫びたいと、この旅に参加されました。なんと素晴らしい、魅力的な方でしょう。お手本にしたいと思います。

それだけではなく、高江地区に住んでおられる安次嶺さん母子も参加して下さいました。甘ったれの末息子の坊やが大好きなママから離れられません。自宅から400mの場所にオスプレイのヘリパッドを建設する話を聞き、ご夫君は座り込みで反対をし、国から通行妨害の罪で訴えられました。国は誰を守っているのでしょうか？



また、残念ながら体調不良で参加できなかった私たちの友人の花子さんが9条クッキーを差し入れてくださり、皆さんで彼女の気持ちを汲みながら、いただきました。

次の日の朝、ひとり、お散歩気分森林浴を楽しみました。「やんばる学びの森」は静かな空間で、ここは「ぬちぐすい(命薬)の森」という別名がありました。庭に小高い丘があって、頂上から太平洋に昇る朝日が見えました。周辺には「サキシマ芙蓉」の大木があちこちにあり、白、ピンク、黄色など大輪の花をつけて咲いていました。ヤンバルクイナの姿は見つけれませんでした。少し離れた所に「ヨンナー・コース」と名付けられた森林探索路がありました。高低差のある680m位のジャングルの中の道でした。蜘蛛の巣を払いながら、どんどん進んでいきました。小鳥の音がします。森の谷を渡る風が、ゴオッと唸ります。深い谷底まで亜熱帯の樹木が茂っていました。五感を研ぎ澄まし、森の住民になって、小鳥や樹木、草花と対話してみたくて、一回り歩いて帰りました。

